

# インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ソウカダイガク	フリガナ）ケイザイガクブケイザイガクカ	フリガナ）ニシウラ
創価大学	経済学部経済学科	西浦ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）イロウハン	フリガナ）オオクボ モエ	7	無し
衣料班	大久保 萌		

## 研究テーマ（発表タイトル）

“次世代型”衣料品リサイクル社会へ ～アップサイクル推進プロジェクト～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究は、大量の衣料品が焼却されている現代において、衣料品のリユース・リサイクルが限界に達している事実に着目したことから始まった。この問題の解決策を追究した結果、新たなリサイクルの形である「アップサイクル」が有効であるとの結論に至った。アップサイクルという新しい概念を多くの人々に認知してもらうこと、またより一層アップサイクルが多くの人々の生活の中に浸透するよう、アップサイクル事業を拡大することをこの研究の目的とした。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在日本では、流行を取り入れた低価格な衣料品が短いサイクルで消費・廃棄されており、年間 100 万トン以上の衣料品が捨てられている。捨てられた衣料品の約 75%は焼却処分され、リユース・リサイクルされる割合は全体の約 25%に過ぎない。焼却の際には環境に負荷を与える二酸化炭素が排出されるため、リユース・リサイクルを推し進める必要がある。国は長年、衣料品のリサイクル法の制定を試みてきたが、技術の乏しさや過少なリサイクル用途のために今日まで困難を極めている。このことは衣料品のリユース・リサイクルが進まない主要因の 1 つとなっている。ただでさえこのように厳しい状況にある中で、現在衣料品のリサイクルはさらに限界を迎えている。

### 3. 研究テーマの課題

日本において衣料品のリユース・リサイクルは限界に達している。リユースに関しては、そのほとんどが中古衣料という扱いで海外に輸出されているが、輸出先である多くの途上国が輸入規制を始めている。これは、経済的発展や現地の国内産業衰退の結果によるものである。一方リサイクルに関しては、主なリサイクル用途である反毛・ウェスの需要が低下している。反毛とは綿のようなものであり、例えば自動車の衝撃吸収材に使われている。ウェスとは工場で発生する油などを拭き取るために使用される雑巾に似たものである。これらは売り手のニーズの変化や海外からの安価な製品の流入により、需要が低下している。したがって、衣料品のリユース・リサイクルの推進は限界を迎えており、この状況を打開する必要がある。

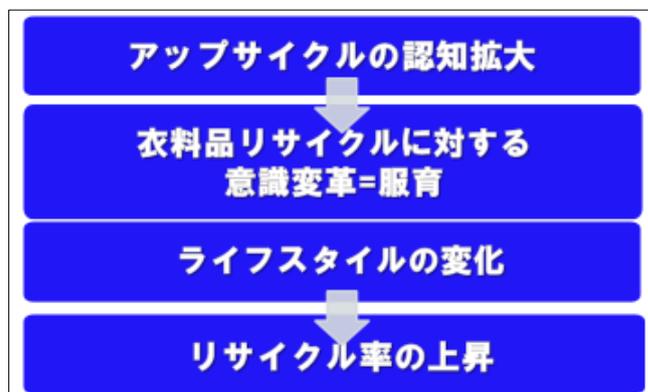
#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちはこの問題を解決するための新たなリサイクルの形「アップサイクル」を提示する。従来のリサイクルが、反毛・ウェスなどに価値を下げるダウンサイクルであるのに対し、アップサイクルは元の製品よりも価値の高い製品を生み出すものである。専門家によると、今後の衣料品のリサイクル推進には、アップサイクルの推進が重要だという。しかし独自調査によれば、アップサイクルの認知度は非常に低い。

アップサイクルとは



衣料班が考えるアップサイクルの意義



そこで、推進の第一歩として、認知度向上を目的に「アップサイクル推進プロジェクト」という意識啓発活動を提案する。衣料品店が立ち並ぶ大型商業施設にてイベントを開催し、アップサイクルを象徴するオブジェを展示する。これは廃棄予定の衣料品（衣料品製造過程で発生する衣料品や、イベント中に一般消費者から直接回収する衣料品）を用いて製作する。さらに、市民団体によるアップサイクル製品の展示も併せて行う。

オブジェ展示



アップサイクルの事例の展示



このような「市民参加型」のプロジェクトは、多くの人々にアップサイクルを認知してもらう機会を提供し、衣料品の価値・可能性の認知と、衣料品を大切にするための意識啓発を促す。このプロジェクトの第二段階として、より一層アップサイクルが多くの人々の生活の中に浸透するよう企業にアプローチし、衣料品によるアップサイクル商品の開発も視野に入れている。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

今年2月より以下の方法で研究を行い、今月で9ヶ月となる。

- ① 環境省や日本繊維学会などの文献調査
- ② 東京都行政 29 市区、および企業・NPO 団体等 45 件へのヒアリング調査
- ③ 9月28日までに延べ1113人に対する独自アンケート調査(2回実施)
- ④ 3名の専門家へのインタビュー
  - (ア) 環境コンサルタント 岩地加代氏
  - (イ) 繊維リサイクル技術協会委員長・京都工芸繊維大学名誉教授 木村照夫氏
  - (ウ) リ・ファッション協会代表理事 鈴木純子氏

<東京都行政ヒアリング 29 市区> 北区・板橋区・葛飾区・大田区・足立区・江東区・荒川区・江戸川区・中野区・台東区・豊島区・千代田区・中央区・品川区・目黒区・世田谷区・文京区・杉並区・練馬区・新宿区・町田市・三鷹市・国分寺市・武

蔵野市・八王子市・府中市・東大和・立川市・日野市 <企業・NPO 団体等ヒアリング 45 件> Terra Cycle・イオンリテール株式会社・株式会社高島屋・株式会社キングファミリー・株式会社オンワード樫山・株式会社チクマ・ナカノ株式会社・キムラセイ株式会社・ワコール・株式会社フコク・オリックス資源循環株式会社・藤レディース・呉服のほっとすペーす中屋・テラー安武・よしどめ洋服病院・奥住商店・美濃屋商店・ホマレヤ・藤レディース・きものにしわ・きものと帯くらた・マアクン西八王子・伊勢屋京呉服店・原宿ファッション(株)・有限会社大恵・株式会社美ショウ・株式会社奥田染工場・有限会社大原織物・草木染工房山村・八王子織物工業組合・扶桑染工株式会社・フジテックス・株式会社杉本プリーツ・小谷田テックス株式会社・日本化学繊維協会・日本リ・ファッション協会・日本アパレル産業協会・ザ・ピープル・一般社団法人繊維リサイクル協・ファイバーリサイクル推進協会 (順不同)

## 6. 結果や今後の取り組み

大型商業施設でのイベント開催に関しては、市民への意識啓発という観点から立川市役所にご協力を頂き、11 月に行われるファッションウィークというイベントの最終日(6 日)にオブジェ展示をさせて頂くことが決まった。オブジェ展示予定場所は立川タクロス広場で、立川駅の利用者が多く行き交う場所である。廃棄予定の衣料品に関しては、廃棄に困っている工場 3 社が見つかっており、うち 1 社からは既に衣料品を回収した。また、学生がアップサイクルの認知を拡大する活動に関して、専門家からは好評価を頂いている。第二段階である衣料品のアップサイクル商品の開発に向け、アップサイクル企業へのヒアリングも行っており、企画書の提出も行った。

## 7. 参考文献

独立行政法人中小企業基盤整備機構(2010)「『繊維製品 3 R 関連調査事業』報告書」 /[http://www.smrj.go.jp/keiei/dbps\\_data/material/common/chushou/b\\_keiei/keieiseni/pdf/53267-01.pdf/](http://www.smrj.go.jp/keiei/dbps_data/material/common/chushou/b_keiei/keieiseni/pdf/53267-01.pdf/) キムラ繊維株式会社(2013)<http://kimura-seni.co.jp/recycle/> / 特別非営利活動法人日本救援医療センター(2015)<http://www.jrcc.or.jp/works.html>/BEiNSPiRED(2015)<http://beinspiredglobal.com/fast-fashion-is-overcosted/>Ethical Fashion Japan(2015)<http://www.ethicalfashionjapan.com/about-ethical/upcycle-reclaim/> / 新電力ネット(2016) (第一資料: 中小企業基盤整備機構) <http://pps-net.org/interncolumn/clothes-recycling/> / ナカノ株式会社(n.d.)「繊維リサイクル製品製造」<http://www.nakano-inter.co.jp/recycle/> / 経済産業省(n.d.)「循環型社会形成のための法制度政策」[http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/pamphlet/pdf/handbook2006\\_2.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/pamphlet/pdf/handbook2006_2.pdf)/<http://homepage2.nifty.com/tmsj/japan/labo/recycle/data/01.pdf>/[https://www.env.go.jp/recycle/circul/keikaku/keikaku\\_3.pdf](https://www.env.go.jp/recycle/circul/keikaku/keikaku_3.pdf) / ニッセイ基礎研究所(2013)「『すてる』と『つくる』をつなぐ仕事」社会研究部門准主任研究員 塩澤 誠一郎 [http://www.nli-research.co.jp/files/topics/40546\\_ext\\_18\\_0.pdf?site=nli/](http://www.nli-research.co.jp/files/topics/40546_ext_18_0.pdf?site=nli/) ウェストリサーチ(2016) [http://waste0044.sakura.ne.jp/16\\_01\\_hp/16\\_01\\_honmon.html](http://waste0044.sakura.ne.jp/16_01_hp/16_01_honmon.html) / 日経ビジネスオンライン(2012)<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20120514/232001/?P=1&rt=nocnt/> / 一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター<http://www.cjc.or.jp>

## インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も

同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。  
※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。